

 CROSS COMPANY CSR REPORT 2014

服をめぐる冒険。

ある日、
クロスカンパニーは考えた。
自分たちは服という仕事を通して
人々に何ができるだろう？
世界をどう変えられるだろう？
それは、
服をめぐるすべてのモノやコトを、
自分たちの目で見つめ直し、
決断し行動する冒険のはじまり。
新しい視野と、
こまやかな精神をもって。

このコーポレートスローガンには、常識にとらわれることなく、
チャレンジし成長しようとする
クロスカンパニーの想いが凝縮されており、
すべての社員がスローガンを共有しています。

Contents

- P.04 Message from the President
- P.06 “クロスカンパニーならではの CSR” を考える
- P.08 The Adventure Story 1 人材
“一生の仕事” に出会える場所となることを目指して
- P.14 The Adventure Story 2 地域社会・将来世代
日本を、地方を、もっと元気にするために
- P.18 The Adventure Story 3 環境
地球環境を守るために、今、できることを始める
- P.22 Another Story 東日本大震災被災地支援
東北地方が真の復興を遂げるまで
- P.24 Basic Information
生産管理
CS に関する取り組み
コーポレート・ガバナンス
コンプライアンス
会社概要

編集方針

クロスカンパニーは、「経済成長と社会貢献の両立」を理念として掲げています。労働問題、女性の社会進出、地域振興、環境保護など、さまざまな社会課題が企業運営と直結していることを強く意識し、企業の社会的責任 (Corporate Social Responsibility : CSR) を果たしていくための取り組みを進めています。それらの取り組みの具体的な内容とクロスカンパニーの考えを、広く社会の皆様にお伝えするため、2013 年度より『CSR REPORT』を発行しています。2014 年度版では、2013 年度版に続き、特に力を入れている 3 つのテーマ「人材」「地域社会・将来世代」「環境」について、クロスカンパニーが最も大切にする“人” に焦点をあててご報告しています。

報告期間

2013 年 2 月 1 日～2014 年 1 月 31 日
※報告期間が異なる場合はその都度明記しています。

報告範囲

株式会社クロスカンパニー
※部分的にクロスカンパニーグループ会社を含みます。

発行

2014 年 4 月

お問い合わせ

社長室 広報チーム
TEL : 03-5770-5601 FAX : 03-5770-5526



撮影：栗原 克己

見えている課題だけでなく、 まだ見えていない課題に立ち向かう

2014年6月、クロスカンパニーは創業20周年を迎えます。1994年に岡山市の小さなオフィスでビジネスをスタートし、その翌年に会社を設立して以来、国内で急速に店舗数を増やしました。2004年からは国内の拡大と並行して香港、台湾、米国、中国に進出し、グローバル展開を進めてきました。このような急速な成長の中で、私が常に感じとってきたことは自らの事業と社会との接点です。目先の利益を追求するだけのビジネスは持続可能ではありません。さまざまな社会問題は私たちの事業のあり方、進むべき方向と密接に関わっているのです。

そして、2013年、「女性のエンパワーメント原則」シンポジウムでニューヨークの国連本部を訪れた際に、これまで以上に事業と社会との接点を深く捉えなければと気づかされる出来事がありました。私はWEPs署名企業の一員としてシンポジウムで「4時間正社員制度」や「女性だけの人事委員会」といった女性登用に関する自社の取り組みをプレゼンテーションさせていただく機会を得ました。短時間正社員制度は日本ではまだ例がなく、社員の9割以上が女性であるクロスカンパニーは国内では珍しい存在だったからです。しかし、欧州などではすでに女性の登用が進んでいてこれらの施策は特別ではなく、人々の関心はむしろほかのことに集まっていました。それはサプライチェーンにおける児童労働や労働環境といった人権侵害の問題です。目の前にある社会的課題に即座に取り組むことはもちろん重要ですが、まだ目に見えていない課題を捉えていくこ

真のグローバルプレーヤーとなるために、 自らの事業と社会との接点を もっと深く捉えていかなければならない

代表取締役社長 石川 康晴

とも非常に大切です。日本のアパレル業界も50年以上前から世界各地で原料を調達し、生産を行っています。そのサプライチェーンにおける人権の問題を放置することはできないと痛感しました。

「フェアサプライチェーン」を実現し、 業界のロールモデル確立を目指す

自社の商品が実際にどのような環境でつくられているのか。当社も含め国内のほとんどのアパレル企業はこれらを完全には把握しておらず、自社製品に使われている綿花が誰によって栽培されているのかわからないというのが現状です。これでは問題に取り組もうにも手のつけようがありません。

クロスカンパニーは2014年、サプライチェーンの見える化を実現するために、「フェアサプライチェーン」に取り組めます。具体的には現在500社程あるサプライヤー企業に協力を求め、原料生産から紡績、組み立て、物流、販売のすべてのステージで人権、労働、環境の観点から調査を行います。将来的にはそれらの結果をもとに一定の基準をクリアした工場で生産を行う仕組みづくりを目指します。実際に、組み立て工場から紡績工場、さらに上流の綿花を栽培する農園まで遡って労働実態や環境配慮を明らかにするには大変な困難をとまなうでしょう。しかし、これが実現すれば、適正な労働環境で、環境に配慮してつくられた商品をお客様にお届けすることができます。そして、生産工程の見える化は品質の安定や向上に寄与し、お客様の満足につながり、結果的に利益向上をももたら

します。生産者、消費者、企業がともに満足を得られるロールモデルとなりえるでしょう。

伝統工芸とファッションの融合により、 新しい価値を持つ事業を創造

また、2014年秋にはかねてから取り組んできた次世代産業育成についても新しい活動が動き出します。岡山県の伝統工芸とSEVENDAYS=SUNDAYの協業による事業で、新たな商品とプレゼンテーションで新たなお客様にアプローチし、社会と経済の両面で価値のある事業を創造していきます。

クロスカンパニーはこれまで、経済成長と社会貢献の両立という理念を掲げ、女性の働きやすさの追求、過疎地域の産業育成、中国・内モンゴル自治区の砂漠緑化といったさまざまな活動を通じて社会課題に取り組んできました。しかし、事業の成長とともに社会との接点はますます多面的になり、深くなっていきます。今後、グローバルプレーヤーとしてビジネスの基盤を確かなものにしていくには、お客様、パートナー企業、サプライヤー企業など、私たちが囲むたくさんの皆様と一体となって社会に対する取り組みもレベルアップしていかなければなりません。私はクロスカンパニーが事業を行うことで地球や社会の状況を悪化させることはない、といえる企業になりたいと考えています。

そして、2020年の東京オリンピックで訪れる各国の人々に、日本という国が選手たちのフェアなプレーだけでなく企業のフェアプレーをも誇れる国でありたいと願っています。

“クロスカンパニーならではのCSR”

「服をめぐる冒険。」というコーポレートスローガンには、「服というオールを漕いで、服をめぐるすべてのモノやコトを見つめ直し、決断し行動する」というクロスカンパニーの決意が込められています。服をめぐるすべてのモノやコト、とはすなわち、クロスカンパニーを取り巻く社会すべて。そこには、お客様、社員、取引先の皆様、本社・本部や店舗と同じ地域に暮らす皆様など、たくさんの方がいます。冒険にはいつも、人というキーワードがついてくるのです。彼らステークホルダー（利害関係者）と関わる企業として、十分な社会的責任（CSR）を果たしていくためには、まず自分たちの存在や活動が社会のどこにどのように影響するのか、プラスの面もマイナスの面も、しっかりと把握することが必要です。そのうえで、クロスカンパニーが取り組むべきCSR活動を積極的に推進していきます。

社会ニーズに即したCSRを 実践するための活動整理

CSRに関する活動やコミュニケーションをより効果的で社会課題に即したものとするため、“クロスカンパニーならではのCSR”の明確化と、取り組みの基盤づくりを進めています。まずは現状を把握し、今後取り組むべき課題やテーマを選定するため、社会的責任に関する国際ガイドライン規格ISO26000をもとにこれまでの活動の整理を行いました。活動の整理には、社外からの客観的な視点と有識者の知見を取り入れるため、特定非営利活動法人経済人コー円卓会議日本委員会^{※1}にご参加いただきました。

※1 特定非営利活動法人経済人コー円卓会議日本委員会:ビジネスを通じて社会をより自由かつ公正で透明なものとするを目的としたビジネスリーダーによるネットワーク。主に企業倫理やCSRといった経済・社会関係の健全な発展に寄与するために活動しています。

クロスカンパニーが取り組むべき重点テーマ

ISO26000に基づく活動整理の結果と、クロスカンパニーが掲げる「経済成長と社会貢献の両立」を目指すという理念、さらに自らの肌で感じ取った問題にはまず立ち向かうという姿勢を踏まえて、クロスカンパニーが取り組むべきCSR活動について考えました。その結果、現場主義、実感主義を基盤に「社会問題を服の力で解決したい」という想いを実現することが、

“クロスカンパニーならではのCSR”であると明確化できました。

これに対し、社会情勢やアパレル企業としての重要性などを考慮し、ISO26000が掲げる7つの中核主題に沿ってクロスカンパニーが重点的に取り組むべきテーマとして特定したのが、サプライチェーン全体における「人権」「雇用、人材育成・教育を含む労働慣行」「環境対応」の3つです。事業活動全体で、社会や環境に与える影響を把握し、生産現場からお客様に商品が届くまで、人権、労働環境、環境問題との関わり・影響を踏まえたCSR活動を行っていくことを目指します。

まずは、サプライチェーンの現状を把握するため、サプライチェーン各社に対するアンケートを2014年度より実施する予定です。

■ ISO26000の中核主題とクロスカンパニーの重点テーマ



を考える

クロスカンパニーのステークホルダー

お客様

「お客様第一主義」はクロスカンパニーの経営理念。ニーズを捉えた高品質な商品と接客で、お客様に新しい価値を提供していきます。

社員

働く社員全員を正社員として採用して育成するとともに、仕事と家庭が両立でき安心して働き続けられる職場環境を整えています。

地域社会

岡山の小さなビルからスタートしたクロスカンパニー。育ててくれた地域を本拠地として、岡山への地域貢献を継続していきます。

将来世代

社会の発展に欠かせないのが、若い世代の成長。グローバルマインドを持つ新たなパートナーを見い出し、育てていきます。

取引先

生産にたずさわる人々やディベロッパーなどの取引先の皆様とは、公正・公平な取引を行い、社会的責任にも配慮した関係を築きます。

女性のエンパワーメント原則 (WEPs)に関する取り組み

クロスカンパニーは、ジェンダー平等と女性のエンパワーメント^{※2}を目指す国連機関UN Womenが提唱する「女性のエンパワーメント原則 (Women's Empowerment Principles = WEPs)」に署名しています。WEPsは、女性のエンパワーメントに自主的に取り組む企業の行動原則で、署名した企業は、女性が社会的にその力を発揮できるような労働環境・社会環境を整備することへの強い意志を、国内外に示すことができます。

2013年度は、国際ソシタ^{※3}が主催し、国連ウイメン日本協会理事長も参加する公開シンポジウムに、代表取締役社長の石川康晴が参加してパネルディスカッションを行ったほか、女性が働きやすい職場づくりに向けた施策の一つとしてイクメン推進休暇制度 (P.13参照)を開始しました。この制度により、将来、管理職になる可能性のある男性社員が育児・家事への理解を深めることで、働く女性を適切にサポートできるようになることを目指しています。さらに、制度の目的と効果を広く社会にアピールすることで、男性が多く働かさまざまな会社でも女性の働き方への理解が深まるきっかけとなつてほしいと考えています。

また、7つの原則を実現するために活動する、さまざまな部署のメンバーで構成された部門横断プロジェクト「女性エンパワーメントプロジェクト」では、原則ごとに社内の現状を確認し、不足している活動を抽出しました。それをもとに、経営層への提言、社内体制の整備を行う予定です。

7つの行動原則

- 原則1 トップのリーダーシップによるジェンダー平等の促進
- 原則2 機会の均等、インクルージョン、差別の撤廃
- 原則3 健康、安全、暴力の撤廃
- 原則4 教育と研修
- 原則5 事業開発、サプライチェーン、マーケティング活動
- 原則6 地域におけるリーダーシップと参画
- 原則7 透明性、成果の測定、報告

※2 女性のエンパワーメント:女性が個人としても社会集団としても意思決定過程に参画し、自立的な力をつけて発揮すること。

※3 国際ソシタ:奉仕と支援を通して全世界の女性の地位向上のために活動する世界的な社会奉仕団体。世界65ヵ国に1,200以上のクラブがあり、約3万人の会員で運営されています。

“一生の仕事”に 出会える場所となることを目指して

クロスカンパニーの成長を支えているのは、
一つひとつの現場で働く社員たちです。
それぞれに優れた能力を持つ社員たちが、
いつまでもいきいきと活躍できること。
それが、世界を牽引する会社へステップアップするための原動力になると、
クロスカンパニーは考えています。
だからこそ、クロスカンパニーでは本部スタッフもショップスタッフも、
全員が正社員。
一人ひとりのライフスタイルに寄り添った多様な働き方を実現しつつ、
着実にキャリアを積み重ねていけるように、
職場づくりと各種制度の整備を進めています。

「キャリアアップは、仕事が大変になる
ことではなく、仕事の楽しさが広がること。
今は、たくさんの部下がどんどん成長して
いく姿を見るのが一番楽しいです」

earth music&ecology店舗管理
課長
中澤 友美



短時間勤務制度を利用しながらのキャリアアップ

西日本エリアを担当する課長として、エリア内すべてのearth music&ecology (P.26参照) 店舗のスタッフや売上、在庫などを管理する中澤。彼女は、本社・経営層と現場を結ぶ管理職であると同時に、エリアSV、SV^{*1}を兼任し直接店舗を運営する現場のプレーヤーでもあり、そして短時間勤務制度を利用して2人の子どもを育てる母親でもあります。

家庭と管理職の両立を可能にする周囲のサポート

多数の店舗を管理する中澤の業務は、SVとして受け持つ京都の店舗を拠点に各地の店舗を飛び回るもの。当然、遠方出張も多くなります。

「きちんと時間内で業務を終えて帰宅するのが、私の家庭のルール。残業や宿泊をともなう出張は事前に夫に相談しますし、急な出張があればすぐに連絡します。子どもがまだ小さいこともあり、夫のサポートにはとても感謝しています」

仕事と家庭との両立に重要なのが夫のサポートなら、管理職と短時間勤務の両立に不可欠なのは、ともに働くスタッフのサポート。中澤が多くの業務を短時間でできるよう、部下であるエリアSVや京都の店舗スタッフが積極的に動いてくれるのが助かる、と中澤はいます。

「スタッフとのコミュニケーションはできるだけ密にとるようにし

ています。短時間勤務なので夕飯や飲みに行くことはできませんが、その分、ランチを一緒にしたり、休日に自宅に招いたりしています」

働き続けることで生まれる変化を楽しむ

とはいえ、どんなに周囲のサポートがあっても、子育てしながらの勤務、それもキャリアアップしていくことは簡単ではありません。しかし、子どものために辞めるのではなく、むしろ子どもを守り育てるために母親もきちんとした経済力を持つべき、というのが中澤の考え。そのためには、結婚・出産後も安心して働き続けられ、キャリアを積み重ねていける環境が必要でした。

「初めて産休をとった時は手続きが煩雑で、会社に改善してほしいと意見しました。すると2度目の産休では各種手続きをまとめた『しおり』が届き、会社の体制が着実に整ってきていると感じました。クロスカンパニーはいろいろな意味で変化が大きい会社。私も一緒に変化し、成長していきたいです。そして子どもが大きくなるまで働き続けて、働くということがどういうことなのか、自分の姿を通して子どもに伝えられたらいいですね」

※1 SV:スーパーバイザーの略。店舗責任者を通して複数の店舗の運営をサポートする職種。SVを通してさらに広いエリアを統括するのがエリアSVで、複数のエリアSVをまとめるのが課長です。

女性の終身雇用支援制度と既婚者に向けた特別制度

クロスカンパニーの社員は、9割以上が女性です。女性は結婚、出産、育児、あるいは介護などの理由で退職せざるを得ない状況になることが多々あります。しかし、それではせっかく育んだ仕事への愛着や身につけたスキルが十分に活かされず、クロスカンパニーにとっても社員自身にとっても不利益となります。

そこで、女性が結婚後も仕事と家庭を両立させ、いきいきと働き続けるとともに、実力に応じたキャリアアップを果たせるよう、産前・産後休暇、育児休暇に加えて、さまざまな支援制度を整備しています。

多様な働き方を支える休暇制度

既婚者が家族とのコミュニケーションを大切にできるよう、日曜日や大型連休期間に休暇を取得できる制度を実施しています。週末や連休期間がビジネスチャンスであるアパレル業界では異例の仕組みですが、徹底したサポートにより、多数のショップスタッフが仕事と家庭の両立を図るために、制度を利用しています。

2013年度はさらに、男性社員の女性の働き方への理解促進を目的とする休暇の設置や、一部の制度改善を行いました。

※各種制度についての詳細は、P.13参照。

女性支援制度を活用できる職場づくり

7名の短時間勤務社員と1名の育児休暇中社員がいる岡山県および広島県福山エリア。そこでエリアSVとして活躍しているのが、自身も短時間勤務制度を利用している藤野です。

徹底したスケジュール管理で短時間勤務の課題をクリア

短時間勤務や休暇制度を利用する際、業務を時間内に終わられないことや、ほかの社員に負担が偏ることなどが課題となります。短時間勤務社員の割合が多いこのエリアでは、藤野が考案した徹底したスケジュール管理を皆で行うことで、これらの課題をクリアしています。

「やるべきことをとにかくすべて書き出してスケジュールに落とし込んでいく。これを毎日行います。仕事が終わらなくてほかの社員に引き継ぐ時も、これをしておくとわかりやすく負担が減るんです」

短時間勤務社員がしっかり働いてきちんと時間通りに退社することは、ほかの社員の安心感にもつながります。

「家庭やプライベートが充実してこそ、いきいきと働けるのだと思います」女性が働き続けられる職場をつくるための試行錯誤は、今も全国の現場で社員たち自身によって続けられています。



earth music & ecology 事業部
エリアスーパーバイザー
藤野 由紀枝

「困ったことがあれば、いくらでも相談に乗ります。
私も上司にいろいろなことを相談しながら働き続けてきましたから」

男性社員へ向けた子育て支援制度

2013年11月から始まったイクメン推進休暇。SEVENDAYS=SUNDAY事業部のブランドマネージャーである宮川も、2歳半になる娘を育てる父親として、毎月この休暇を取得しています。

目指すのは、全社員が働きやすい職場

イクメン推進休暇は、10歳までの子どもを持つ男性社員が、家事や育児に利用することを前提に取得する休暇。男性社員の子育て参加促進だけでなく、産前・産後休暇や育児休暇を取得する女性社員の立場やライフスタイルへの理解を深めることも、目的としています。

「毎月必ず取得するため業務調整は必要ですが、休みやすい日を意識すれば特に問題はありません。この休暇制度は、男性も女性も同じように子育てを実践しながらお互いの働き方を考える、よいきっかけだと思います」

制度をつくるだけでなく、それを使う社員自身やその周囲の皆が理解しあえる、上辺だけでない本当に働きやすい職場の実現を、クロスカンパニーは目指しています。



執行役員
SEVENDAYS=SUNDAY 事業部
ブランドマネージャー
宮川 雅基

「子どもと一緒に過ごせるのも、共働きの妻の負担を軽くできるのも嬉しいです」

海外の事業と社員の教育・働き方

現在、クロスカンパニーの事業拡大の最前線は海外にあります。台湾から始まった海外展開は中国へと進み、2014年1月末時点でearth music&ecologyとE hyphen world gallery (P.26参照) あわせて90店舗が台湾・中国にオープンしています。

日本の本社・本部と台湾、中国の店舗を結ぶさまざまな業務を担当しているのが、台湾出身の温。月に何度も日本と現地を行き来しながら、クロスカンパニーの海外展開を支えています。

国境を超えて広がる事業とクロスカンパニーらしさ

文化や風習が異なる台湾・中国では、日本と同じやり方で店舗づくりや社員教育を行うことはできません。各国の状況を理解したうえで調整していくことが必要です。この調整こそ、温が持つ大きな役割の一つであり、クロスカンパニーが世界へ拡大していくために欠かせない要素。

社員教育や働きやすい職場づくりの面でも、文化や風習の違いは影響します。クロスカンパニーでは、海外の社員に対しても日本と同等の接客力や商品知識を求めています。中国には元々日本のようにきめ細かい接客をする文化がなく、割り切ったドライな対応が一般的でした。

「中国の社員もクロスカンパニーの接客の理念をきちんと理解して、それが必要だとわかれば、同じようにできます。必要なのは、接客を学べる環境を整えること。ペースはすでにできていて、それは中国の店舗の前を通っただけでわかります。スタッフの立ち方や笑顔がとてもよいので、店舗全体の雰囲気は周囲とは全然違うんです」

社員の働き方についても、クロスカンパニーの理念は一貫しています。日本と同様に、優秀な社員にキャリアを積み重ねてもらうため、スタッフ全員を正社員として雇用するとともに、現地の状況にあわせた休暇や福利厚生を導入しています。

「中国でも労働環境の改善が社会課題として注目され始め、急速に改善が進んでいますが、日本をベースにどんどん新しい制度を増やしているクロスカンパニーは、他社と比べてずっと働きやすいと思います」
事業拡大とともに、クロスカンパニーが目指す“一生の仕事”に出会える職場も世界へ広がっています。



社長室 秘書チーム
主事
温 蕙瑜

「台湾・中国から日本が刺激を受ける部分もたくさんある。もっと一体となって発展していける体制をつくりたいです」

チャレンジする社員を支援する制度

社員全員が最適な職場でいきいきと働けることを目指して、販売職から本社・本部総合職への異動希望を社員に向けて広く公募する制度、公募(キャリアアクション)制度を実施しています。

制度開始から2014年1月までに15名がこの制度を利用して、希望する部署へ異動しました。

研修制度

業務に必要なスキルを得るための基本的な研修から、リーダーとしてキャリアアップするための研修まで、社員の状況や能力にあわせてさまざまな研修を実施しています。

能力を向上させるだけでなく、長く働き続けられる環境を整えることも重視し、実際に働く社員の声や退職する社員の意見を参考に、積極的に新しい研修制度を創出しています。

※研修制度についての詳細は、P.13を参照。

東日本大震災被災者への雇用支援

2011年3月の東日本大震災で被災した方々への支援の一つとして行った雇用支援。それをきっかけにクロスカンパニーに入社した社員たちは、今も全国各地の店舗で順調にキャリアを重ねています。

雇用支援をきっかけに自分らしく働ける場所へ

東日本大震災後、会社都合により解雇された石井がクロスカンパニーの正社員募集を知り、面接を受けたのは2011年5月。この頃の被災地は、食糧などの物資が行きわたり、次の段階として被災者が働ける場が必要とされている状況でした。

「社会のニーズに対応してくれる会社だと好印象を持ちました。面接では、志望動機だけでなく被災状況まで親身になって聞いてくれて、その姿勢がとても嬉しかった」
入社した当初は、ヒールのある靴で長時間立つだけでも大変だったという石井ですが、次第にできることが増え、売上をあげられるようになると、自信がついて働くのが楽しくなったといいます。店舗責任者になって1年半が経った今の目標は、自分の部下から店舗責任者を輩出すること。

現在は、青森県南地域最大級のショッピングセンターで、「私は、私らしく頑張る」と笑顔で働いています。



E hyphen world gallery PDイオンモール下田店
店舗責任者
石井 槇穂

「やる気があれば成長できる会社。
ここで頑張らないのはもったいないと思っています」

クロスカンパニーだからこそ持てた、夢と目標

宮城県塩竈市で暮らしていた宮城は、被災した当時は高等学校を卒業したばかりでした。大学への進学が決まっていたが、親の職場が営業停止になり、自分も働こうと決意。ところが、震災直後の被災地には女性の正社員募集はほとんどなく、さらに職歴もなかったため、応募しても書類審査で落とされることが続きました。そんな中、緊張しながらも「とにかく笑顔」と意識して受けたのがクロスカンパニーでした。宮城は、入社してすぐにたくさんの夢と目標ができたといいます。

「店舗での仕事が好きなのでBEST OF CROSS (P.13 参照) に出たいし、SVや本部の仕事にも興味があります。やる気があればキャリアアップできる会社なので、どんどん挑戦していきたいです。今はせっかく被災地である郡山で働いているので、一緒に働くスタッフや上司、それにお客様から元気をもらいながら、東北は元気なんだ！とアピールできるように全力で頑張りたいです」

「南三陸町にできるミシン工房も手伝いたいです。
もう一度、元気な南三陸町を見たい」



Green Parkstopic
イオンショッピングモールフェスタ郡山店
店舗責任者
宮城 沙也香

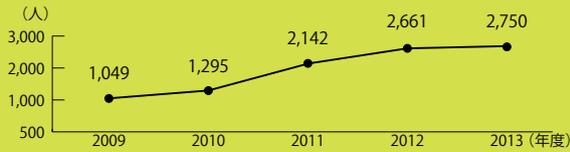
東日本大震災被災地支援活動 雇用支援

2011年4月より中途採用・新卒採用に被災者を対象とした「東北地区特別採用枠」として、180名の採用枠を設けました。これは、東日本大震災発生後、被災地における雇用情勢の悪化が社会課題となったことを受け、雇用機会の提供が被災地復興に向けた重要な支援であると考え、実施したものです。

「東北地区特別採用枠」で採用した社員は、クロスカンパニーが

2011年度に国内で新規出店する店舗のスタッフとして、神奈川、愛知、静岡を中心に全国の店舗で勤務しました。勤務地での住居はクロスカンパニーが用意し、引越しにかかる費用およびその後の住居費も全額負担。また、入社から1年経過後は、希望により東北地区の地元の店舗に移動するUターンも可能となりました。現在、実際に被災地へ戻って働いている社員も多数います。

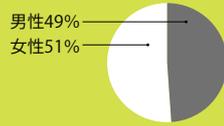
■ 社員数の推移



■ 社員の男女比率



■ 管理職の男女比率



クロスアカデミー

社員の感性を育てることを目的に、本社・本部社員全員が参加するアカデミーを2010年から開催しています。服飾ブランド、美術、音楽、夏フェス(野外ロックフェスティバル)など、ファッション文化に関するテーマで感性を磨くほか、会計知識や一般マナーに関する知識を深める場にもなっています。社員が講師を務めていましたが、より視野を広げるため2013年7月からは社外の方々のさまざまな分野で活躍している方々を講師としてお招きしています。



BEST OF CROSS

CSのNo.1企業を目指すためのインナーインセンティブプロモーションとして、接客ロールプレイング※コンテスト「BEST OF CROSS(ベスト オブクロス)」を開催しています。全国大会で優秀な成績を収めたショップスタッフは、クロスカンパニーの中で最も輝いている存在であり、また最もCSスキルが高いともいえます。2013年度は、earth music&ecologyイオンレイクタウンmori店の倉島郁美が第1位を受賞しました。全国大会上位入賞者6名は、さらなるホスピタリティを学ぶため、ヨーロッパでの研修旅行に参加します。



※ロールプレイング：教育方法の一つ。役割演技法ともいう。実際の仕事上の場面を設定し、そこでの役割を演じることで、実務上のポイントを体得します。

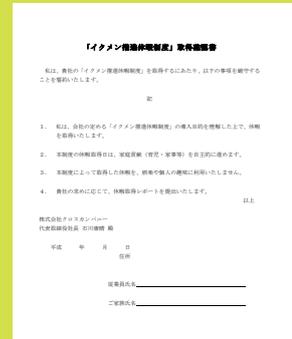
■ 研修制度

制度	内容
新入社員研修	3泊4日の「新入社員研修」のほか、内定者に向けた「入社前導入研修」を実施
中途採用社員研修	店舗配属当日は専属トレーナーが基本を指導する「ショップ研修」を実施。入社後3ヵ月間は、先輩社員が「シスター」となり教育する。3泊4日の「中途採用社員研修」も実施
キャリア研修	新卒・中途採用社員を対象に、クロスカンパニーを担う人材を育成するための研修を2日間にわたり実施
スキルアップ研修	各ブロック教育担当SVによる研修を実施。また、「SV基礎研修」として、複数店舗を管理するために必要なスキルと実務研修を合計6ヵ月間実施
新店舗責任者研修	店舗責任者になるために必要なスキル、マニュアルをマスターするための研修を2日間にわたり実施
店舗責任者SV強化研修	リーダーのあり方や後輩の指導方法などの研修を、参加者同士のディスカッションを交えながら実施
接客ロールプレイング研修	外部ロールプレイングコンテストの全国大会や決勝大会へ出場するスタッフを対象に、接客応対の強化を目的に実施
マーケティング研修	社外より講師を招き、本社・本部の事業部を中心に受講。グループワーク後、講師・役員・参加者へ向けプレゼンテーションを実施

仕事と家庭を両立する人事制度の整備

クロスカンパニーは、すべての社員がワークライフバランスを実現できる企業を目指して、現場で働く社員の意見をもとにさまざまな制度を策定・運営しています。社員が仕事と家庭を両立し長く働き続けられるよう、定期的に制度の見直し・改善も行っています。

2013年度は、イクメン推進休暇制度を新設し、短時間勤務制度の対象者を拡大する改善を行いました。また、有給休暇についても取得を促進しているほか、既婚者が日曜日に公休を取得できる「日曜日特別休暇制度」を推進しています。



イクメン推進休暇制度に基づく休暇を、家事や育児に利用したことを示す「確認書」。取得者とその配偶者(もしくは子ども)が署名して提出します。

■ ワークライフバランスの実現を支援する制度

制度	内容	利用者数
短時間勤務制度		
4時間正社員制度	結婚、妊娠、出産、育児、介護などの各種事由による4時間の短時間勤務※1	29名
6時間正社員制度	結婚、妊娠、出産、育児、介護などの各種事由による6時間の短時間勤務※1	108名
時短制度	子どもとのふれあいの時間を大切にする勤務体系を実現するための4時間の短時間勤務	83名
休暇制度		
産前休暇制度 産後休暇制度	最大12週間の産前休暇と8週間の産後休暇を取得できる	30名
育児休業制度 育児休業期間延長制度	最大13ヵ月の育児休業を取得できる 市区町村より待機児童の証明書を受領している社員に対して、最大で子どもが1歳6ヵ月になるまで育児休業を延長できる	41名
イクメン推進 休暇制度	0歳から12歳までの子どもを持つ男性社員に対し、育児を目的とした公休を月に1日付与する	32名
長期休暇制度	傷病、その他やむを得ない事由により会社が認めた場合は、基本3ヵ月まで休暇を取得できる	17名
3連休特別休暇制度	販売職社員の3連休公休取得を可能とする	45名
ホリデー休暇制度	有給休暇取得、海外文化体験、親族・友人との交流を促進するため、1年に一度、6連休または3連休×2回を取得できる	1,290名
大切な人休暇	販売職社員に月間所定公休数の制限なく、「大切な人」と過ごす休暇を年に1日付与する	924名
育児支援		
育児費支援制度	育児にかかる支出を金銭的に補助する※2 4時間勤務/10歳未満:月額1万円、10歳以上18歳未満:月額4千円 6時間勤務/10歳未満:月額2万円、10歳以上18歳未満:月額6千円 8時間勤務/10歳未満:月額3万円、10歳以上18歳未満:月額1万円 短時間正社員 / 別途金額で支給	41名

※1 2013年度より、未婚者の利用(会社が認めた場合)、介護のための利用も可能となりました。
※2 子どもの人数による増減はありません。

■ 福利厚生

制度	内容
社宅制度	住宅費用、引越し費用の会社負担
勤続年数研修旅行	正社員勤続3年目が対象
資格支援制度	業務に必要な資格の取得への金銭補助

※数値、制度内容などはすべて2014年1月31日時点のものです。

日本を、地方を、 もっと元気にするために



クロスカンパニーは岡山に本社を構えたまま、一気に世界企業へ発展することを目指してきました。そして現在、クロスカンパニーが台湾、中国を中心としたアジアから、さらに欧米諸国まで事業エリアを拡大しているように、地方にはまだまだ発展の伸び代があります。地方が元気になるには、次代を担う将来世代を育て、地方で働き続けてもらうことが必要です。日本企業として、岡山の企業として、岡山をはじめとした日本各地の地域社会や将来世代の支援を行うとともに、世界企業として行うべき海外へ向けた支援にも取り組み始めました。

故郷・岡山を応援する活動の第一歩

“オカヤマ”アートヴィレッジプロジェクト (P.15参照) やオカヤマアワード (P.16参照) など、岡山で行うプロジェクトは本社総務部が中心となって活動を行っています。私は普段、情報管理など会社の内部統制に関わる業務を行っていますが、クールオカヤマフェスではメインの一つとなるオカヤマフードフェスを担当しました。出店交渉や舞台となる新庄村への説明では大変に思うこともありましたが、私自身が岡山出身なので、故郷を元気にする活動に関われるのは嬉しかったです。

クールオカヤマフェスの開催日は、2日間ともあいにくの雨でしたが綺麗な青空が見られる瞬間もあり、遠方からの来場者も新庄村の村民の方々も、笑顔で楽しんでくれました。今回は初めての試みで、オペレーションの面でも反省することがたくさんありましたが、来年はもっとイベント全体を見ながら、今回協力してくれた出店者や社内と新庄村のボランティアスタッフ、村役場の方々、自宅前のスペースを貸してくれた村民の方々と一緒に、さらによりイベントをつくりあげたいと思っています。

総務部
主事

山下 智子



オカヤマフードフェスでは、今後計画している宿泊施設や美術館の設立を見据え、村の景観を壊さないブースづくりを実施しました。さらにアパレル企業であるクロスカンパニーらしさも加味するため、SEVENDAYS=SUNDAY (P.26参照) などの店舗内装を行っているELD INTERIOR PRODUCTSにブース設計を依頼。ナチュラルでおしゃれなブースは、新庄村の村民の方々にも好評をいただきました。



オカヤマミュージックフェス



新庄村メルヘンの里盆踊り大会

“オカヤマ”アートヴィレッジプロジェクト

日本各地の村の多くでは、現在、過疎化が大きな社会課題となっています。岡山でも、特に中山間地域での人口減少が深刻なことから、クロスカンパニーはまず山間部の村から岡山を元気にしていく必要があると考え、“アート”の力で地域の魅力を発信する“オカヤマ”アートヴィレッジプロジェクトを始動しました。

プロジェクトではまず、第1回オカヤマアワード (P.16 参照) で行政・自治体部門を受賞した岡山県真庭郡新庄村を舞台に、村全体を“アート”で満たし、“アート”を通じて産業と観光を根づかせる都市再生戦略を実施します。クールオカヤマフェスをキックオフイベントとし、古民家を再生して利用する宿泊施設やレストラン、美術館の設立を検討しています。これらの施設を運営することにより、観光誘致と雇用創出を実現します。新庄村は、豊かな自然をはじめ古きよき日本が持っていた魅力が今も残る稀有な場所です。そんな新庄村の景色を守りつつ、新庄村が主体的に関わりながらプロジェクトを進めていくことをクロスカンパニーは重視しています。今後も、村民の方々と密にコミュニケーションをとり長い時間をかけて村を発展させていくと同時に、新庄村をモデルケースとして、ほかの過疎化が進む村へも活動を広げていきます。

クールオカヤマフェス

“オカヤマ”アートヴィレッジプロジェクトの第1弾として、「クールオカヤマ=カッコいい岡山を集める」をコンセプトに、上質

な“食”と“音楽”を通して新庄村の魅力を発信するクールオカヤマフェスを2013年8月24日、25日に開催しました。“食”では、オカヤマフードフェスとして岡山県内の一流シェフがブースを出店。新庄村の特産品である野菜や米、イノシシ肉などを取り入れたプレミアムフードを手頃な価格で提供しました。一方“音楽”では、オカヤマミュージックフェスとして岡山に縁のあるアーティストなどが特設ステージでパフォーマンスを披露しました。

イベントの企画・運営はクロスカンパニー総務部や新庄村役場で構成する実行委員が中心となり、イベント当日のスタッフにはクロスカンパニー社内や新庄村ほか岡山県内外からボランティアを募りました。

2日間の開催で来場者は約3,000人となり、新庄村の魅力を広くアピールすることができました。また、生産者と飲食店を結ぶことで地域経済を活性化するビジネスチャンスも生まれています。

新庄村メルヘンの里 花火大会・盆踊り大会への支援

新庄村では、毎年8月中旬に打ち上げ花火と盆踊りを楽しめるイベント、新庄村メルヘンの里花火大会・盆踊り大会を開催しています。2013年度は、8月14日に打ち上げ花火約380発を打ち上げました。

クロスカンパニーはこのイベントを、協賛金を通して支援しています。

新庄村役場からの声

アートヴィレッジプロジェクトのお話を初めて聞いた時は、驚くと同時にわくわくしたのを覚えています。実際、村民が自分たちの村のことを考えるきっかけになっており、特に、若年層が成長するためのよい機会となりました。

クールオカヤマフェスは、準備期間が短く、また村民への説明が不足しがちになり、一部で批判が出たことも事実です。しかし、新庄村で今までに見たことのない景色を見ることができたのは、とても嬉しいことでした。

クロスカンパニーの皆さんと一緒に仕事できたのも、印象深かったです。クロスカンパニーには新しい感覚があり、一緒に仕事するのは刺激的でしたし、とても勉強になりました。

クロスカンパニーは、アパレル企業の枠を超えて、さまざまな分野で活躍されています。今後も、岡山を盛り上げ、日本を盛り上げ、世界に羽ばたいていかれることを期待しています。まずは、一緒に新庄村を熱く盛り上げていきましょう。



新庄村役場
産業建設課 主任
柴田 清さん

岡山県の若い力を応援する オカヤマアワード

岡山県の経済や文化を向上し、地域の活性化と起業家、事業主や若いアーティストを支援することを目的に創設されたオカヤマアワード。現代に必要なのは、人と人がつながり切磋琢磨しながらお互いを刺激しあうことである、という考えのもと、前向きな競争意識と連帯感の醸成を目指しています。

オカヤマアワードは、同じ業界のプロがプロを選ぶ「部門賞」と選考委員会が選ぶ「特別賞」で構成され、その中から大賞を選出します。2013年度は約12,000部のアンケートを各業界の企業・団体に送付して、受賞に相応しい人物をあげてもらい、さらに県内の企業・自治体のトップら約20名の意見も集約しました。その結果、アパレルや美容、建築・インテリアなどの各部門から16名が表彰されました。

大賞となる「ベスト オブ ザ イヤー2013」には、衣料品を中心としたリサイクル店を全国展開している有限会社ベクトルの村川智博さんが選ばれ、授賞式の壇上で「岡山が子どもたちにとって、夢や希望が持てる街であるよう、これからも励んでいく。受賞を機に岡山をさらに元気にすることを誓う」と語りました。

クロスカンパニー代表取締役社長石川康晴を発起人として、2010年から始まったこのオカヤマアワードを、クロスカンパニーは事務局業務や授賞式会場のサポートを通して支援しています。オカヤマアワード授賞式は、受賞者たちに華々しくスポットライトをあてモチベーションを高めてもらうため、岡山で最大規模のきらびやかなドレスコードパーティとして開催しています。



授賞式で壇上に立つ村川智博さん(右)と伊原木岡山県知事(左)



有限会社ベクトルの社員たち

“ゴミ0(ゼロ)”の美しい街を目指す 「エコクリーナーズ」

クロスカンパニー代表取締役社長石川康晴の、「嫌な仕事を高齢者に任せない若者がいる街にしたい」という想いと「ファッションに関わる者が地球を汚してはならない」という考えから、社員や取引先の皆様などに呼びかけ、大規模な清掃活動を行っています。

2007年より岡山市街地にて「庭園岡山エコクリーナーズ」として年2回(4月・10月)実施してきましたが、2013年4月からは、東京本部に近い東京都赤坂の繁華街での清掃活動も開始し、名称を「エコクリーナーズ」に統一しました。

岡山県内での活動エリアも拡大しており、岡山市街地のほか、倉敷市、美作市、瀬戸内市などでも活動を行っています。今後は新たに総社市も加えて県内9拠点での開催とし、クロスカンパニーの社員とともにさらに多くの取引先や学生の皆様にもご参加いただく予定です。また、クールオカヤマフェス(P.15参照)でも臨時開催し、新庄村の会場周辺を清掃しました。東京での活動は、港区が推進する道路・公園に関するボランティア活動「アドプト・プログラム」に参加しており、港区からの支援を受けています。

東京での清掃活動に参加した社員からは、「清掃活動をして清々しい気持ちになった」「近隣住民の方が声をかけてくださり、コミュニケーションがとれてよかった」などの声が聞かれました。また、港区赤坂支所からは「大規模な清掃活動が行えてよかった。一社でこれだけの規模は珍しい」と評価されました。

今後も、岡山や東京をゴミのない美しい街にすることを旨とするとともに、取引先や住民の皆様との貴重なコミュニケーションの機会として、活動を続けていきます。



岡山で実施した「エコクリーナーズ」

2013年度開催実績

第13回

開催日時: 2013年4月20日 8:30~10:00

参加者数: 岡山 約1,700名 / 東京 約120名

第14回

開催日時: 2013年10月19日 8:30~9:30

参加者数: 東京 102名(岡山県内は雨のため中止)

さまざまな団体への支援

おかやまバトンへの支援

おかやまバトンは、岡山大学の学生や教職員有志によって2011年5月に発足した東日本大震災被災地支援団体です。被災地の子どもたちを岡山に招待しスポーツやレジャーを楽しんでもらう活動などを行っています。

クロスカンパニーは、2012年度より資金援助などを通して継続的な支援を行っています。

岡山南高等学校での CSR 講演

クロスカンパニー代表取締役社長石川康晴の母校である岡山県立岡山南高等学校からの依頼を受け、CSRとは何かを説明するとともに、クロスカンパニーが実際に行っているCSR活動を紹介する講演会を実施しました。生徒たちは皆真剣に講演を聞いており、同席した教師からは「とても勉強になった」との評価をいただきました。



「一校一品運動」への支援

岡山県高等学校商業教育協会が提唱する「一校一品運動」を支援しています。この運動では、高等学校と企業が共同開発した商品を県内の大学祭などで販売する経験を通して、高校生の企画立案能力やマーケティング能力を伸ばすことを目的としています。2013年度、クロスカンパニーは倉敷市立精思高等学校の生徒たちとともにトートバッグを制作しました。トートバッグの売上は、東日本大震災被災地へ寄付されました。



ファジアーノ岡山 CSR パートナー

岡山をホームとするプロサッカークラブ、ファジアーノ岡山をCSRパートナーとして支援しています。2013年度も、ファジアーノ岡山に所属する選手たちが行う子どもサッカー教室や学校訪問などへの資金援助を行いました。



スペシャルオリンピックス岡山への支援

知的発達障がいのある方々に日常的なスポーツ・トレーニングとその成果を発表する競技会を提供する活動を岡山で行っているスペシャルオリンピックス岡山に、正会員として参加し、資金援助を行っています。

NPO 法人タブラサへの支援

循環可能な社会・岡山を目指す、若者中心のNPO法人タブラサの活動を支援しています。タブラサでは、結婚式で一度使用したキャンドルを回収し、リサイクルキャンドルとしてまた活用するなど、エコの要素を取り入れた街づくりのアイデアを実現しています。

瀬戸際世界芸術祭への協賛

2013年11月3日に岡山で開催される瀬戸際世界芸術祭に協賛しました。瀬戸際世界芸術祭は、障がい福祉の世界から、音楽・演劇という表現において新しい世界をつくり出す芸術祭です。クロスカンパニーは、岡山をアートで盛り上げるという主旨に賛同しました。

チャリティバザーへの商品無償提供

2013年4月13日に岡山ユニセフ協会が開催したチャリティバザーに、100点以上のクロスカンパニーの商品を無償で提供しました。バザーの収益金は岡山ユニセフ協会を通して、シリアでの紛争で影響を受けている子どもたちへの支援活動の資金となる、日本ユニセフ協会の緊急募金に寄付されました。

Okayama Hair Collection Awards 2013 への協賛

岡山のファッション・クリエイティブ業界全般と地域の活性化のため、2013年11月18日に開催された Okayama Hair Collection Awards 2013 に協賛しました。

OKAYAMA BEAUTY SUMMIT 2014 への協賛

美容を通じた地域貢献を目指し、女性の自信と豊かな心が発信されることで、社会全体の豊かさや経済活性につながるという主旨に賛同し、2014年3月9日に開催される OKAYAMA BEAUTY SUMMIT 2014 に協賛しました。

岡山県博物館協議会賛助会員へ加入

岡山の文化向上と文化活動の拡大を目指し、岡山県博物館の活動を支援する協議会賛助会員へ加入しました。

地球環境を守るために、 今、できることを始める



クロスカンパニーでは、企業として、また地球上で生きる存在として、身近な商品である服を通じた活動から、中国や内モンゴルなど海を隔てた遠い場所の環境問題を解決するための活動まで、幅広く取り組んでいます。社員一人ひとりがボランティア活動や日々の業務などさまざまな場面で活動を行っていますが、地球環境という大きな課題に対しては、より広く社会とともに取り組んでいく必要があります。お客様や取引先も巻き込んで、社会全体で地球環境を考え、守っていくための活動を行っていきます。

CSRを意識した販売促進キャンペーン

「アウター買い替えキャンペーン」は、冬のアウターの販売促進企画として、部内の会議で発案されました。お客様のアウターを下取りする企画になったのは、earth music&ecologyの環境にやさしいというブランドイメージにあてはまることと、幅広いお客様に環境のことを考えるきっかけになってもらえるのでは、と考えたからです。クロスカンパニーでは、会社全体でCSRに力を入れているので、社会のことや環境のことを普段の業務でも気にかける意識が社員に浸透しています。今回のキャンペーンは、その線上にあるものです。

お客様の服をお預かりする下取りキャンペーンは、クロスカンパニーでは初めてのことで、業界全体でもまだ珍しい取り組みだと思えます。店舗スタッフたちは私たちと同じようにCSRの意識があるので積極的に協力してくれましたが、オペレーションの組み立てはかなり慎重に行いました。今回のキャンペーンは詳細な効果測定ができる仕組みにしてあるので、結果を分析し、次の販売促進企画や会社全体のCSR活動に活かしていきたいです。

宣伝販促部
主任
小山 亜希子



**アウター買い替え
キャンペーン**
10.18 FRI-11.4 MON

ご不要なアウターを
お店で引取ります！
1回の引取りにつき、その場で
アウターが10%OFF!

詳しくはHPをご覧ください
http://www.earth1999.jp/ep/10color_dff/

earth music&ecology

アウター買い替えキャンペーン
10.18 FRI-11.4 MON

ご不要なアウターをお店で引取ります！
1回の引取りにつき、その場でアウターが10%OFF!

これがアースの、
フルフルダブル！
colorful&useful!

10color duffel ¥4,999

earth music&ecology

10 COLOR DUFFEL
10color duffel ¥4,999

WEBカタログ
10color duffel ¥4,999

10%OFF

アウター買い替えキャンペーン
10.18 FRI-11.4 MON

10%OFF

10color duffel ¥4,999

earth music&ecology

earth music&ecology 店頭で設置したポップとお客様に配布したチラシ。たくさんのお客様にご協力いただけるよう、実施各店舗では店頭告知やチラシ配布に加え、レジや店内でスタッフがお客様とお話する際に直接ご案内するなど、積極的な告知活動を行いました。

アウター買い替えキャンペーン

全国の earth music&ecology 店舗にて、2013 年 10 月 18 日～11 月 4 日の期間中、不要となったアウターを店舗まで持参すると、1 回の引き取りにつきその場で購入アウターを 10% オフにするキャンペーンを実施しました*1。アウターは、クロスカンパニーの商品に限らず、他社の商品であっても引き取り割引を実施しました。また、アウターの定義をお客様の判断に委ねることで、より多くのお客様が気軽にキャンペーンに参加できる仕組みにしています。

引き取ったアウターは、「衣類の廃棄量を 0 にする」ことを目的に活動している株式会社 ICO JAPAN*2 を通じてリウェア、リユース、リサイクルのいずれか最適な形で二次活用します。

このキャンペーンにより、衣類の廃棄量を減らすことによる地球環境負荷の軽減、繊維や金属など価値ある資源の有効利用など、持続可能な社会へつながる積極的な環境保全を行うことができました。

キャンペーンの結果、短い期間であったにもかかわらず多くのお客様にご協力をいただき、アウター 6,552 枚、合計 4,586.7 キログラムを回収することができました。

これからも、商品を通してお客様や取引先とともにできる環境活動など、アパレル企業であるクロスカンパニーらしい取り組みに挑戦していきます。

※1 一部、実施内容、実施期間の異なる店舗がありました。

※2 株式会社 ICO JAPAN: 繊維リサイクルの世界的なリーディングカンパニーグループ SOEX の一員で、古着や靴の回収事業を展開している I:COLLECT AG の日本法人。I:COLLECT AG は、H&M や PUMA と提携し欧州や北米を中心に 56 カ国で古着と靴の回収事業を展開。

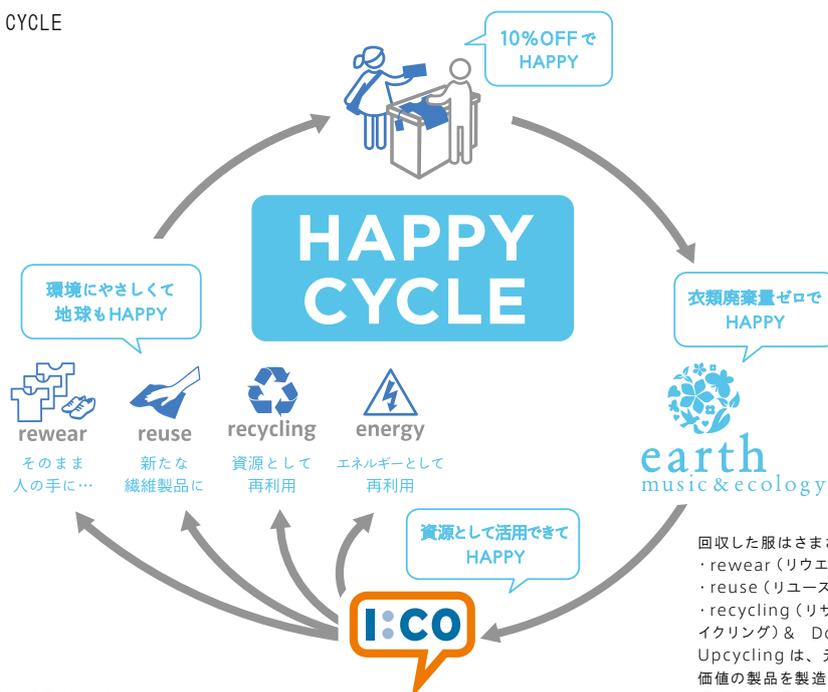


ロジスティクスセンターに集められたアウター



株式会社 ICO JAPAN の Web サイト
<http://www.ico-spirit.com/jp>

■衣類を有効活用するHAPPY CYCLE



着なくなった服や靴を回収し最適な方法で活用することで、クローズドループ（廃棄することなく、素材を有効活用するリサイクルの循環）の構築を目指します。

回収した服はさまざまな用途で活用します。
 ・rewear (リウェア) : 古着として販売。
 ・reuse (リユース) : 繊維製品に再利用。
 ・recycling (リサイクリング) : Upcycling (アップサイクリング) & Downcycling (ダウンサイクリング)。Upcycling は、元々の製品価値と同等かそれ以上の価値の製品を製造するために活用。Downcycling は、現在多くの場合に行われているリサイクル方法で、再生繊維として不織布などに生まれ変わり、自動車生産の際に絶縁材などとして活用。

one tree プロジェクト

クロスカンパニーは、2009年より中国・内モンゴル自治区にあるホルチン砂漠で緑化活動を行う one tree (ワン ツリー) プロジェクトに取り組んでいます。

経済活動がもたらした過度な耕作・放牧による砂漠化は、消費国として恩恵を受ける私たちにもその責任の一端があります。それを自覚するとともに、現在ではクロスカンパニーにとって主要な事業展開エリアである中国で果たすべき社会的責任を考える第一歩として、取り組みを続けてきました。

2013年度は、「アースの森」の近くに「クロスチャイナの森」として新たに10ヘクタールの土地を契約。今後10年間、継続して森づくりを行っていきます。中国でも日本での活動と同じように、対象商品の売上金の一部を苗代として寄付するほか、クロスチャイナのスタッフが実際にホルチン砂漠に行き、植樹する予定です。

砂漠の緑化は、木を植えることだけではなく、砂漠化してしまった場所の植生を回復し、それが持続できる社会をつくる必要があります。内モンゴル自治区は元々半乾燥地（ステップ気候）で、高い木が生い茂る自然環境ではありません。そのため、元の自然な状態に戻すには植樹だけでなく、砂漠化のそもそもの原因となった過放牧の改善、苗の保護・育成が重要となります。



2010年アースの森



2013年アースの森

岡山ロジスティクスの植樹メンテナンス

岡山ロジスティクスでは、2010年、緑化推進のため社員の手で2,010本の苗木を植樹しました。植樹から3年半が経過した現在、苗木は順調に育っていますが、夏でも降雨の少ない瀬戸内地域では、定期的なメンテナンスをしなければ、苗木が枯死してしまう可能性があります。

そこで、植樹した苗木を健康に育てるとともに、自分たちが行ってきた活動を放置せず、関心を持ち続けるために、2013年8月よりメンテナンスを委託している会社とともに社員も除草や剪定、散水などの作業を行うこととしました。

クロスカンパニーは、木をただ植えて終わるのではなく、環境改善に役立つ緑地や森に育つまで活動を継続していきます。

one tree プロジェクトでは、資源として利用できる植物を植えることで、地域住民の持続可能なライフスタイルへの転換にも貢献しています。植樹を始めて4年が経過した現在、クロスカンパニーが植樹したポプラの林間では、地域住民が畑をつくれるようになりました。

緑化の現場からの声

PM2.5等の大気汚染、食品安全、そして砂漠化などは、当該国だけの問題ではありません。汚染物質は国境を容易く越え、発生源の工場や自動車は日本をはじめとする外資系企業に関わるものが多く、また日本が大量に輸入している食料は、土壌を荒廃させ、水を収奪しています。

モノ・カネ・情報が国境を越えて行き来する経済のグローバル化。しかし、エコも同じようにグローバルなものなのです。それなのに、「なぜ中国で日本人がビジネスを?」とは聞かれないのに、「なぜ中国で日本人がエコを?」と聞かれるのはなぜでしょう。この一つの答えとして、2009年に始まったアースの森に続き、2014年春にはクロスチャイナの森がホルチン砂漠に出現します。

中国でも環境意識は年々高まっています。消費者へのアピール力が強いクロスカンパニーの商品を通じて、自国の砂漠化への関心や日本企業の取り組みを広く知ってもらう絶好の機会になるとともに、日本国内でもこの活動の意義をより多くの消費者に伝えていただくことを期待しています。



NPO法人
緑化ネットワーク
事務局長
北浦 喜夫さん



2010年の苗木

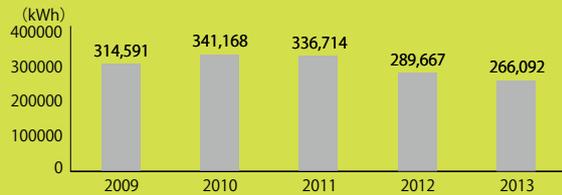


2013年の苗木

本社での電力使用量削減の取り組み

クロスカンパニー岡山本社では、オフィスでもできる環境対策を積極的に取り入れ、電力の節約に努めています。2013年度は、残業時間を減らすことでパソコンの消費電力を減らす、日中はできるだけ消灯するなどの取り組みにより、2012年度に比べて23,575kWhを削減しました。

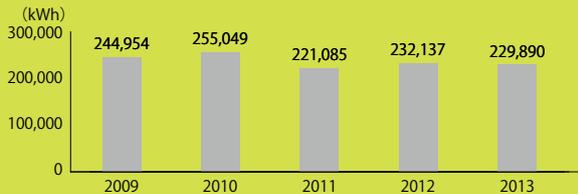
■ 岡山本社電力使用量の推移



エコ物流センター

岡山ロジスティクスでは、屋根に設置した約800平方メートルの太陽電池パネルによって発電した電力をセンター内で使用しています。これにより、太陽電池パネルを使用しない場合と比べて、電力会社からの購入電力量を約2/3に削減しています。

■ 岡山ロジスティクス電力使用量の推移



エコ照明

クロスカンパニーは4つの主要ブランド^{※1}のすべての店舗で、エコ照明として高効率反射照明を使用しています。高効率反射照明とは、反射効率が従来比で20%高い反射板を使用した演出照明器具です。各ブランドの店舗でエコ照明導入前後の電気使用量削減率およびそれにとまなうCO₂削減量を比較したところ、25%~38%の削減を確認できました。

※1 earth music&ecology, E hyphen world gallery, YECCA VECCA、Green Parksの4ブランド。ブランドについて詳しくはP.26参照。

ペットボトルキャップと切手の回収・寄付

クロスカンパニー岡山本社と東京本部では、ゴミとして捨てられる資源を有効に活用するとともに、世界の恵まれない人々を支援するため、使用済みのペットボトルキャップと切手を回収し、それぞれエコキャップ推進協会と公益財団法人ジョイセフ^{※2}に寄付しています。この取り組みは、本社に勤務する社員の提案をきっかけに始まりました。

2013年度は、ペットボトルキャップ21,715個と切手0.85kgを寄付しました。

※2 公益財団法人ジョイセフ：途上国の妊産婦と女性の命と健康を守るために活動している日本生まれの国際協力NGO。

オーガニックコットンを使用した商品

Green Parksでは、トルコ産のオーガニックコットンを使用した商品を販売しています。このコットンは、世界的なオーガニック・テキスタイル基準であるGOTS^{※3}の認証を受けた農地で、化学肥料を使わずに自然なサイクルで育てられたものです。今後も、環境にやさしい原材料を積極的に使用していきます。



※3 GOTS: Global Organic Textile Standard. オーガニック・テキスタイルについて、原料の収穫から最終製品までの製造加工工程に明確な要件(Criteria)を設定し、トレーサビリティの確保、ケミカルの使用について禁止と制限の規定、社会的規範などを含む総合的な基準。

エコポイント制度

マイバッグ持参もしくはショッピングバッグが不要のお客様に対して、お買い上げ商品1点ごとにスタンプが1個つく、エコポイント制度を実施しています。2012年度まではearth music&ecologyのみを対象としていましたが、2013年度よりGreen Parksにも制度を拡大しました。スタンプを25個または50個まで貯めると、次回以降のご購入の際に割引特典を利用できます。このポイント制度により、過剰なショッピングバッグの消費を防ぎ、資源を保護することを目指しています。



再利用デニムによる壁面緑化

岡山の繊維産業のシンボルであるデニムを再利用して土壌開発をする「デニムリサイクル+グリーンウォールプロジェクト」を、岡山大学農学部と共同で行っています。開発した土壌(緑化基板材)を、建物などの壁面緑化や屋上緑化に利用することにより、デニムの廃棄を削減しCO₂排出量の抑制につながります。クロスカンパニー岡山本社で壁面緑化を実施しているほか、イオンモール倉敷の壁面に、お客様からご提供いただいた約300本のデニム製品を再利用した土壌を設置しています。



クロスカンパニー岡山本社

東北地方が 真の復興を遂げるまで

クロスカンパニーは、東日本大震災が発生した2011年3月11日直後から、独自の被災地支援プロジェクト「クローバープロジェクト（Clover Project = CROSS COMPANY + LOVE + RING）」を立ち上げ、雇用支援（P.12参照）や義援金の寄付などを行ってきました。

しかし、震災から3年が過ぎる今も、被害が大きかった東北3県を中心に津波被害の爪痕は残ったままで、雇用不安や地域経済の悪化といった問題も解決していません。

クロスカンパニーは、東北地方が真の復興を遂げるまで、長期的な支援を継続していきます。

南三陸町ミシン工房

クロスカンパニーは、宮城県南三陸町で被災した女性たちの経済的自立を支援する南三陸ミシン工房（旧：ミシンでお仕事プロジェクト）*を支援しています。このプロジェクトでは、被災した女性たちにミシンを提供し、そのミシンで制作した作品を販売することで経済的自立を目指しています。

被災地では女性たちが集まって作業ができる場所がなく、仮設住宅の限られたスペースなどで作業を行っていました。しかし、それでは作業効率が悪く業務用のミシンを使用できないうえ、技術力向上のための講習会開催も困難です。そこで、クロスカンパニーは2012年5月から2013年3月31日まで、工房の設立に向けた募金活動を実施。皆様のご協力の結果、義援金として15,249,557円をNPO法人南三陸ミシン工房に寄付することができました。工房建設には10,700,000円を使用し、残りは運営資金として活用されます。

津波で被災した南三陸町は復興計画もまだ立っておらず、工房を建設する土地を探すのも難しい状態でした。クロスカンパニーは土地の選定・視察にも協力し、半年以上かけて建設できる土地を確保。2013年9月19日より建設工事を開始し、同年12月16日に完成、2014年1月18日には建物に関係者やご協力をいただいた皆様へ披露する竣工式を行いました。工房内には、ミシンメーカーなどより寄付された工業用本縫いミシン2台、インターロックミシン2台、職業用ミシン2台、芯貼り機1台、バキュームアイロン台1台が設置されています。竣工式当日より正式に工房として稼働しており、新しい建物の中で女性たちが企業のノベルティグッズやキャラクターグッズ、オリジナルバッグなどの制作を行っています。

クロスカンパニーでは引き続き店頭募金を行っており、今後も被災地のニーズにあった支援に取り組んでいきます。

*被災地支援ボランティア団体「ふんばろう東日本支援プロジェクト」が取り組む支援プロジェクトの一つ。



（上）完成した専用工房
（下）建設中の様子

クローバーバッジ

「チーム・クロス（お客様、社員）、東日本に愛を」の概念により、愛の象徴としての四葉のクローバーをモチーフとしたバッジを、全社員が着用しています。また、募金にご協力いただいたお客様にもおわたししています。



南三陸ミシン工房からの声

現在、南三陸ミシン工房では16名の縫い手と8名の東京スタッフが活動しています。

南三陸町は、瓦礫の撤去作業は終わりましたが、その分、何もない更地が広がっており、将来の見通しがなかなかつかない状況が続いています。そんな中で、ミシンで縫製する仕事があることは、被災者が前向きに生きていくためにとても重要です。これまでは拠点がなく活動が続けていたので、生産管理や在庫管理で苦勞をしましたが、専用の工房が完成したことでそれらが解消されました。東北の被災地でも津波の被害が大きかった南三陸町は、建物が全流出していたので継続的な活動が非常に困難でした。そんな時に、クロスカンパニーに工房建設支援のお話をいただき、とても感謝しています。

クロスカンパニーは、支援を継続的に考えてくださっているところがよいと思います。震災から3年が経ち社会の関心も薄れていますが、南三陸町は未だ復興どころか復旧の段階にあるといえますので、これからもぜひ支援を継続していただきたいです。アパレルのプロであるクロスカンパニーの力をお借りしたいことは、たくさんあるのです。

特定非営利活動法人南三陸ミシン工房 代表

熊谷 安利さん



ミシン工房で作成した「おらほもあんだほもがんぼっべし! Bag」を持つメンバー（左から吉田裕美さん、鈴木やすかさん、熊谷安利さん）



専用工房が完成する前の倉庫

縫い手の皆様の声

現在つくっている作品はバッグ類が多いのですが、業務用のミシンや道具があればもっとレパートリーを広げられると思うので、工房には期待しています。今後の生活のことなど、将来を考えると心配になることはたくさんありますが、ミシンの仕事をしている時は作品だけに集中できます。私にとって、とても大切な時間です。そんな時間を過ごせるのも、全国の皆様の支援のおかげと思っています。

高橋 かつ子さん

新しい工房ができるのを、とても楽しみにしています。工房ができれば、余計な荷物の持ち運びが減るので、助かります。ミシン工房で働くようになり、たくさんの人と出会いました。震災がきっかけではありますが、この出会いは私の宝物です。ミシンの仕事は楽しいので、これからも好きな仕事をして、明るく前を見ていきたいと思っています。

畠山 つた子さん

ミシン工房の仕事は、新しい作品をつくったり仲間と出会えたりするのが、とても楽しいです。専用の工房ができれば、必要な道具や材料を1か所にまとめられるし、皆でいつでも集まれるようになるので、楽しみです。被災した直後は、何も考えられなくなりましたが、全国の皆様の暖かい支援のおかげで、元気に仕事ができるまでになりました。今度は、さらに自由に使える場所ができたことで、また頑張る力になります。

三浦 桂子さん



左から高橋かつ子さん、畠山つた子さん、三浦桂子さん



工房で作業をしている縫い手の皆様

生産管理

クロスカンパニーは中国、ASEAN諸国、ヨーロッパ、南米などで商品の生産を行っています。その9割以上が中国の協力工場です。そこで生産される商品が、安心・安全であることはもちろん、生産する工場の実環境対応や、労働環境も正しく守られていなければ、クロスカンパニー自身が社会から認められません。すなわち、サプライチェーンのすべての工程について、責任を持って管理していくことが必要なのです。

現在、生産工場の選定については、現地の工場に精通したパートナー企業に委託し、緊密に連携しながら、逐次チェックを行っています。旗艦ブランドのearth music&ecologyについては、商品がどの工場で作られたのか、検品工場はどこなのかなどを一元管理し、毎週更新を行っています。これにより、万一不良などが発生した時、工場や工程を特定し、迅速に対応することが可能になっています。

これからもお客様に安心して商品をお買い上げいただくために、サプライチェーンの意識レベルを向上したうえで標準化し、さらに有効な生産管理体制を構築していきます。また、モニタリングなどの手法を用い、製造現場にクロスカンパニーの社員が直接訪問するなど、コミットを深めていくことで、CSR視点なども取り入れながら進めていきたいと考えています。

まずは、サプライチェーンの現状を把握するため、2013年11月よりサプライチェーン各社に対するアンケート実施に向けた検討を開始しました。その結果をもとに、継続的な生産現場のモニタリングを行っていく予定です。また、モニタリングなどの手法を用い、製造現場にクロスカンパニーの社員が直接訪問するなど、コミットを深めていくことで、CSR視点なども取り入れながら進めていきたいと考えています。

CSに関する取り組み

CS研修センター

店舗網が急速に拡大する中で、接客クオリティの維持・向上にこれまで以上に注力し、CS（顧客満足度）を向上させることを目指し、ショップスタッフの育成強化を目的とした教育研修施設「CS研修センター」を千葉県柏市に設置しました。センター内には、新入社員から店舗責任者クラスまで幅広く活用できるよう、実際の店舗と同じような売場を再現しており、販売の基礎や実践レベルの研修を行うことができます。

実務を通じたOJT^{*1}と「CS研修センター」での研修により、さらなる接客力アップを図っていきます。

※1 OJT: on-the-job trainingの略。実際の仕事を通じて、必要な技術、能力、知識、あるいは態度や価値観などを身につけさせる教育訓練。



以上の質問に回答した結果から順位を算出しています。earth music&ecologyは、「顧客満足度」「推奨意向」において第1位となり、さらに「顧客期待」「知覚品質」「知覚価値」の指標においても高い評価をいただきました。

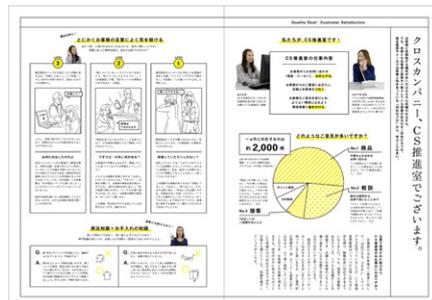
クロスカンパニーのブランドが調査対象となったのは今回が初めてですが、今後も高いCSを維持できるよう、取り組みを推進していきます。

※2 サービス産業生産性協議会：サービス産業の生産性向上を実現する、産学官のプラットフォーム。

CS推進室

CS推進室では、お客様からのお問い合わせ（電話・メール）やご要望に対応するとともに、それを店舗やその他の関係部署に伝え、よりよい接客、商品企画、店舗環境づくりにつなげる取り組みを行っています。

お客様のお問い合わせやご要望には丁寧に耳を傾け、臨機応変に対応し、その一つひとつの事例をCS向上のための貴重なヒントとしています。さらに、社内報などを通して販売スタッフほかさまざまな部署の社員に対して、商品知識やお客様対応に関する情報共有・社員教育を行うことで、クロスカンパニー全体のCS向上を図っています。



2013年度JCSI調査でのCS1位獲得

サービス産業生産性協議会^{*2}が実施する「JCSI（日本版顧客満足度指数：Japanese Customer Satisfaction Index）」調査において、earth music&ecologyが衣料品業種で第1位の評価を獲得しました。調査は2013年8月20日～9月13日にインターネット・モニターを用いて行われ、約3万人が100項目

コーポレート・ガバナンス

クロスカンパニーは、お客様、取引先、社員、地域社会などの皆様をはじめ、すべてのステークホルダーの視点において、透明性、公平性のある、自主独立した経営体制をとり、企業価値を向上させることを目指しています。

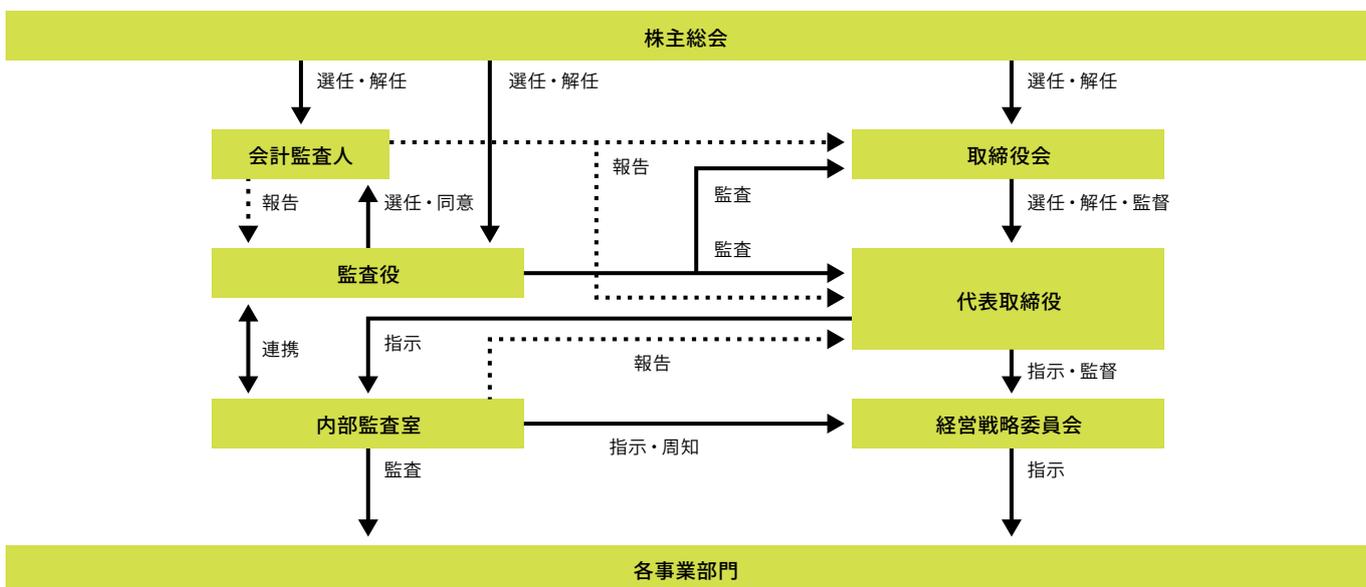
コーポレート・ガバナンス体制

会社の意思決定機関として、株主総会、取締役会を設置し、さらに戦略会議によって業務執行における意思決定の迅速化を図っています。取締役会は4名の取締役および2名の監査役で構成されており、毎月1回の定期開催と必要に応じた臨時開催により、法令で定められた事項や経営に関する重要な事項などの意思決定・監督を行っています。

クロスカンパニーは監査役設置会社の形態をとっており、社外監査役1名を含む監査役2名を設置しています。社外監査役を選任することで、業務執行の公平性や法令遵守における監督機能を強化しています。監査役は、毎月1回開催される監査ミーティングにおいて監査方針・計画・方法・その他監査に関する重要な事項について意思決定を行うほか、会計検査人より監査計画ならびに期中および期末の監査結果報告を受け、会計監査人の監査に係る実行状況を随時聴取し、確認しています。監査役と会計監査人は、適宜意見交換を行い、連携の強化に努めています。

今後も、社会の動向や社外第三者からの意見などを参考としながら、より効率的で透明性の高い充実したコーポレート・ガバナンス体制の構築に、継続して取り組んでいきます。

■業務執行の体制と内部統制の仕組み



コンプライアンス

業務執行部門からは独立した立場の内部監査を実行する監査セクションとして、内部監査室を設置しています。さらに監査役は定期的に業務執行部門から取引状況に関する報告を受け、必要があれば取締役会へ進言するとともに、監査役業務の精度向上にも努めています。

また、社員一人ひとりがコンプライアンス意識を持って日常業務にあたるために、法務部またはコンプライアンス推進室が入社時研修および管理職研修などの機会にコンプライアンスに関する講義を行っています。

会社概要 (2014年1月31日現在)

名称	株式会社クロスカンパニー
本社	〒700-0903 岡山県岡山市北区幸町 2-8 TEL 086-235-8216 (代) FAX 086-235-8217
本部	〒107-0052 東京都港区赤坂 7-2-21 草月会館 TEL 03-5770-5556 (代) FAX 03-5770-5526
URL	http://www.crosscompany.co.jp
物流センター	クロスカンパニーロジスティクス 岡山ロジスティクス 〒701-4254 岡山県瀬戸市内市邑久町豆田 151 TEL 0869-24-2771 FAX 0869-24-2767 関東ロジスティクス 〒306-0608 茨城県坂東市幸神平 41-2 福山通運坂東支店内 TEL 0297-36-8016 FAX 0297-35-6588
創立	1994年6月
設立	1995年2月
資本金	1億円
年商	764億円
事業内容	アパレル衣料品・バッグ・靴・時計・貴金属・その他雑貨の企画、製造、販売、小売販売および飲食店舗の運営
社員数	2,750名
決算期	1月

役員構成

代表取締役社長	石川 康晴
専務取締役	立花 隆央 営業本部長
常務取締役	熊谷 健 経営企画室長
常務取締役	張替 勉 管理本部長
取締役	神田 充教 経営企画室副室長
取締役	美濃部 哲也 KOE 事業部部长
取締役	清水 優 店舗開発部部长
取締役	長瀬 泰典 商品部部长
監査役	森 寛
監査役	長尾 謙太
執行役員	後田 幸 YECCA VECCA 事業部 BM
執行役員	大松澤 佳成江 earth music&ecology 事業部 BM
執行役員	宮川 雅基 SEVENDAYS=SUNDAY 事業部 BM
執行役員	安信 千賢 社長室長
執行役員	佐藤 光広 IT システム部
顧問弁護士	近藤 弦之介
顧問弁護士	北村 康央
監査法人	有限責任監査法人トーマツ

ブランド一覧

<p>アース ミュージック&エコロジー earth music&ecology</p>  <p>ナチュラルガーリッシュをテーマに、愛されスタイルからカジュアルMixまで。 女の子が大好きな、甘さがありナチュラルで上品なテイリースタイルを提案するブランドです。</p>	<p>イーハイフン ワールドギャラリー E hyphen world gallery</p>  <p>「soft mode」をテーマにデザイン、ディテールにこだわりを持った遊び心あふれる個性的なアイテムが豊富に揃います。 トレンド要素を取り入れながら、女の子が持つ「かっこよさ」「可愛さ」を表現するリアルクローズブランド。</p>	<p>セブendizサンデイ SEVENDAYS=SUNDAY</p>  <p>太陽と一緒に、心地のよい時間を過ごすためのオフタイムカジュアルブランド。 レディース・メンズ・キッズの洋服や、人気定番ブランド、雑貨に至るまでを取り揃え恋人、家族、仲間と過ごす時間を大切に人へ、新しいライフスタイルを提案していきます。</p>	<p>グリーンパークス Green Parks</p> <p>Green Parks</p> <p>20以上のレディース人気ブランドに加え、上質でデザイン性のあるアイテムをセレクト。 ベーシックかつナチュラルを基本に、それぞれのライフスタイルにあわせたスタイルを提案。</p>	<p>イエッカ ヴェッカ YECCA VECCA</p> <p>YECCA VECCA</p> <p>ベーシック×モードの絶妙なバランスで、リラックスしたシルエットの中にラグジュアリー感をプラス。自由なマインドでファッションを楽しみたいすべての大人の女性に向けて日常をクラスアップさせる個性的なリアルクローズを提案。</p>
--	--	--	--	--

クロスカンパニー グループ会社

売上高・店舗数の推移

名称 克洛絲股份有限公司
CROSS TAIWAN LIMITED
会社番号
29033557

本社 105-97 台北市松山區南京東路五段1號3樓
3F, NO.1, NANJING E. RD., SEC. 5, SONGSHAN
DISTRICT, TAIPEI CITY 105-97, TAIWAN (R.O.C)
TEL +886 (2) 2762-7298 FAX +886 (2) 2762-7296

事業内容 アパレル衣料品の企画・製造・小売販売の運営

名称 可洛絲商貿(上海)有限公司
CROSS CHINA LIMITED

本社 200041 上海市静安区江宁路188号並盛大廈6樓
04-05室
ROOM 04 & 05, 6F, ASA BUILDING NO. 188,
JIANGNING RD., JINGAN DISTRICT, SHANGHAI
CITY 200041, CHINA
TEL +86 (21) 32111071 FAX +86 (21) 32111051

事業内容 アパレル衣料品の企画・製造・小売販売の運営

名称 THOM BROWNE INC.

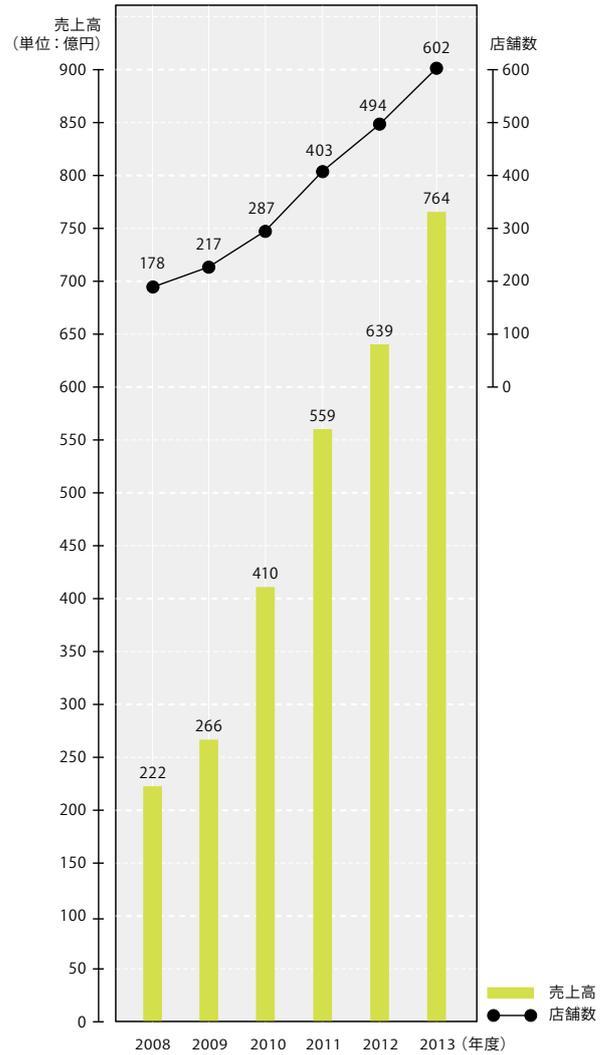
本社 210 11th Avenue Suite 401 New York, NY10001
USA

事業内容 米國「トムブラウン」ブランドの商品企画製造販売

名称 株式会社キャン (CAN COMPANY LTD.)

本社 〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2丁目6番1号
TEL 03-3223-7777 FAX 03-3223-5050

事業内容 アパレル衣料品および雑貨の企画・製造・小売販売・
ショップ運営



キワシルフィー
KiwaSylphy

世界中的デザイナーズブランドやクラス感の高いシューズ、アクセサリーを取り揃えるセレクトSHOP。オリジナルは「シンプルティアー」を基本コンセプトに、フェミニンとマスキュリン、相反する要素を融合することで、しなやかでやわらかい、それでいて芯の強い女性を表現。タイムレスに愛される、良質で洗練されたデザインで本質的な女性の美しさを魅力的に引き出す服づくりを提案。

メゾン ド フルール
Maison de FLEUR

Maison de FLEURは「Happy Birthday」がテーマ。自分のスタイルを大切にしているすべての女性のために、フレンチテイストをベースにした上質なアイテムを提案します。自分へのご褒美、大切な人への贈り物…。人生を彩るさまざまなシーンにフィットするラインナップを揃えました。ショップのネームやインテリアは、映画『ココ・アヴァン・シャネル』に登場する花の間をイメージ。上品で定番でありながら、洗練されたスタイルを展開します。

ラトリエ フェネートル
L'ATELIER FENÊTRE

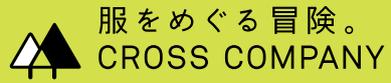
ヨーロッパを中心に、世界中から集めてきたアイテムに加え、上質なオリジナルアイテムを展開するセレクトショップ。遊び心を持ちながらも上品におしゃれを楽しみ、自分自身をアピールする装いができる大人の女性のためのお店です。古きよき時代のものと新しいものをミックスさせながら新しいモードを自分たちの手によってつくりあげ、東京・代官山から発信していきます。

トム ブラウン
THOM BROWNE

数々の賞を受賞し、常にファッション業界の注目を集めるトム・ブラウンが2001年に自身の名を冠し始めたブランド。ファッションは個々のためのものであり、着る人が楽しむためのものだという彼の信条に基づき、ボタンドアンのシャツにクロップ丈のスーツをあわせるスタイルや、グログランテープを使用したアイテムなど、アメリカントラッドをモダンに進化させたスタイルを貫いています。

カフェ アンマーブル
unmarble

食・人・音楽が混じりあう空間を、時間を問わず楽しんでいただけるフードカフェ。季節のオリジナルスイーツ、フードメニューが豊富に揃う、新しいカフェスタイルを展開。



服をめぐる冒険。

CROSS COMPANY